

平成30年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立春日北小学校

校長 下田 秀人

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成30年4月17日(火)

■ 調査の対象学年

小学校6年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A、理科〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B、理科〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

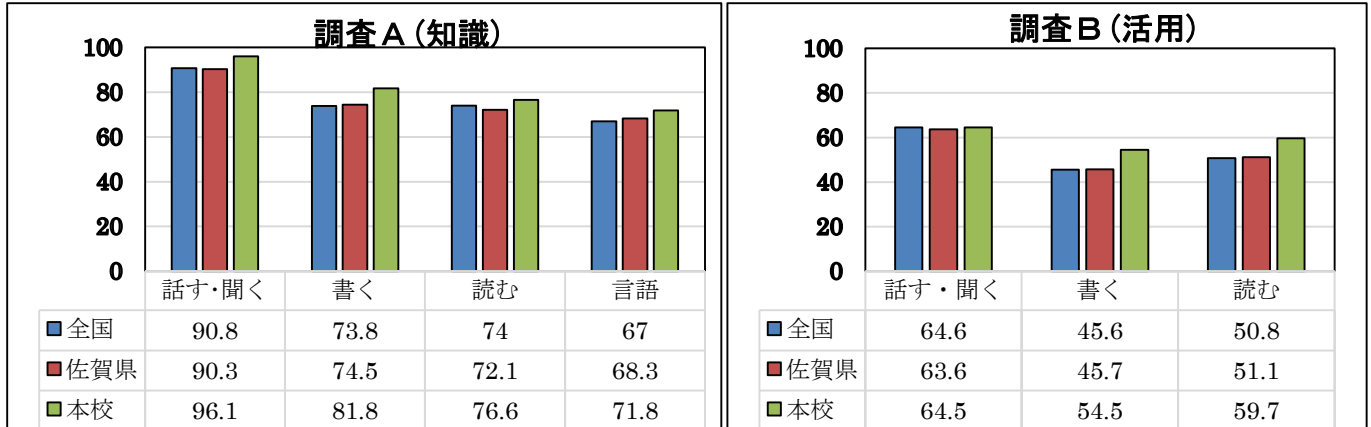
全国学力・学習状況調査は小学6年生（中学3年生）と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数（数学）、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野（問題）です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察

1. 国語

(1) 結果

全国・佐賀県正答率との比較



平均の正答率は、A・B問題の両方とも全国・佐賀県平均を上回る結果であった。分布の割合を見ると低位の児童の割合が少ないことが分かる。また、全国平均と比べても無解答率が低く、時間いっぱい問題に取り組んで解こうとした結果といえる。

(2) 成果と課題

話す・聞く

・話し合いの際に、参加者として、質問の意図を捉えたり、司会の役割について捉えたりすることはできていた。相手の話を聞く際、自分の意見と比べ、考えをまとめるところに課題がある。

書く

・目的や意図に応じて、文章全体の構成の効果を考える問題はよくできていたが、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題が見られた。書いてはいるものの、条件を満たして書くことができておらず、誤答となるものがあつた。

読む

・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことはできていた。二つの文章を読み比べて、目的に応じて出題者の意図を捉える問題に課題が見られた。文章の前後を注意深く読み、根拠となる言葉に注目しながら読むなどの効果的な読み方を工夫する必要がある。

言語事項

・漢字の読みやことわざの意味を問う問題の正答率は、全国・佐賀県平均を上回っていた。スキルタイム、宿題等の効果が見られたと考える。しかし、主語と述語の関係に注意し、文を正しく書く問題に課題が見られた。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 相手の話を聞く際は、自分の意見と比べて共通点や相違点を考えながら、最後まで聞くようにしていきます。
- 学び合う活動の中で、理由や根拠を分かりやすく説明する力をつけていきます。
- 朝の「あすなる読書」や学級の読書の時間を有効に使い、図書館からのおすすめの本「ブックチャレンジ」などを利用して年間120冊を目標に読書力をつけるようにしていきます。
- 朝の時間の「国語タイム」で、条件作文や語彙力をつける問題に取り組みせ、条件に合った文章を書いたり、言葉や語彙を豊かにしたりしていきます。

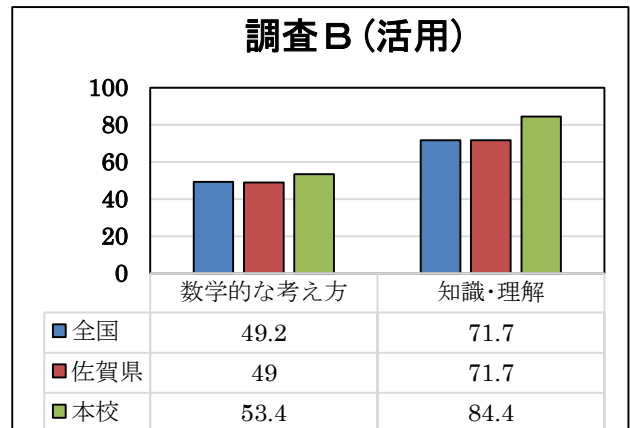
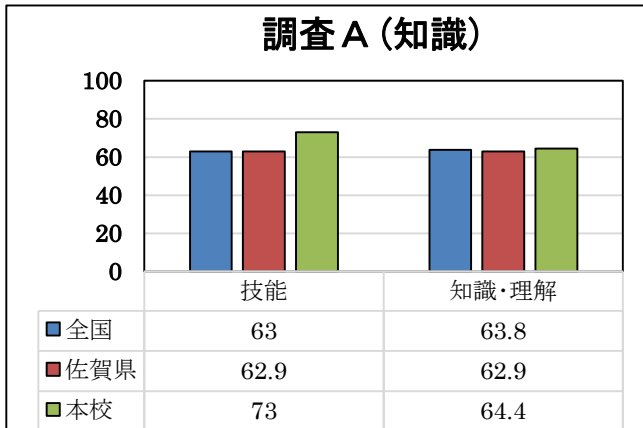
【ご家庭では】

- 社会の中で起こった出来事について家庭の中で話題にして、家族と話す習慣をつけてください。
- 音読をしっかりと聞いてあげましょう。毎日繰り返し読むことで、文節の区切りや、言葉の意味など確実に定着していきます。そうすることで読解力も向上していきます。
- お子さんとの会話を楽しみましょう。聞くときは最後まできちんと聞き、話すときは語尾まではっきり話すようにさせましょう。
- 親子読書などに取り組み、家庭での読書を薦め、語彙力と知識の幅を広げましょう。

2. 算数

(1) 結果

全国・佐賀県正答率との比較



平均の正答率は、A問題、B問題ともに、全国・佐賀県平均を上回っていた。特に、B問題の知識・理解の観点では、全国・佐賀県平均を10ポイント以上上回っていた。この結果から基本的な学習は身に付けているといえる。しかし児童の解答を見ると、記述式で正答率が27%、かつ無解答が15%を超える設問もあった。順序よく筋道立てて説明することに課題があるといえる。

(2) 成果と課題

数学的な考え方

- すべての設問で全国・佐賀県平均を上回っていた。グラフを扱った問題で、正答率が低い設問があり、相互のグラフを見比べて、示された数が実際の数量なのか割合なのか、どんな変化を示しているかなど多角的に読み取ることが難しいようであった。情報を正確に読み取り、情報と情報との相関に気づくことが課題だといえる。

数量や図形についての技能

- すべての設問で全国・佐賀県平均を上回っていた。百分率を求める問題では、正答率が50%台だったので、計算の技能だけでなく割合の意味をしっかりと捉えさせることが必要である。

数量や図形についての知識・理解

- ほぼ、全国・佐賀県平均を上回っていたが、図形領域で、円の直径と円周との関係を正しく理解できていない児童がいた。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 「計算ドリル3回」の取り組みで、基礎基本の力をつけています。
- 授業では、「めあて」と「まとめ」を明確にし、学習のねらいを確実に意識させます。自力解決、学び合う活動、まとめ、振り返りと一連の流れを仕組み、友達の意見を吟味させたり、根拠を説明したりする言語活動を多く取り入れ、みんなで理解を深める学習を実践します。
- 週末に取り組む「チャレンジ算数プリント」の内容を吟味し、続けて取り組ませます。
- 朝の時間の「算数タイム」を、全校一斉に実施し、計算力向上と集中力を身につけさせていきます。
- 算数で学習したことが、次の算数の授業や他教科の学習の様々なところ、日々の生活の中などで活用されていることに気付かせ、算数のよさを実感できるようにしていきます。

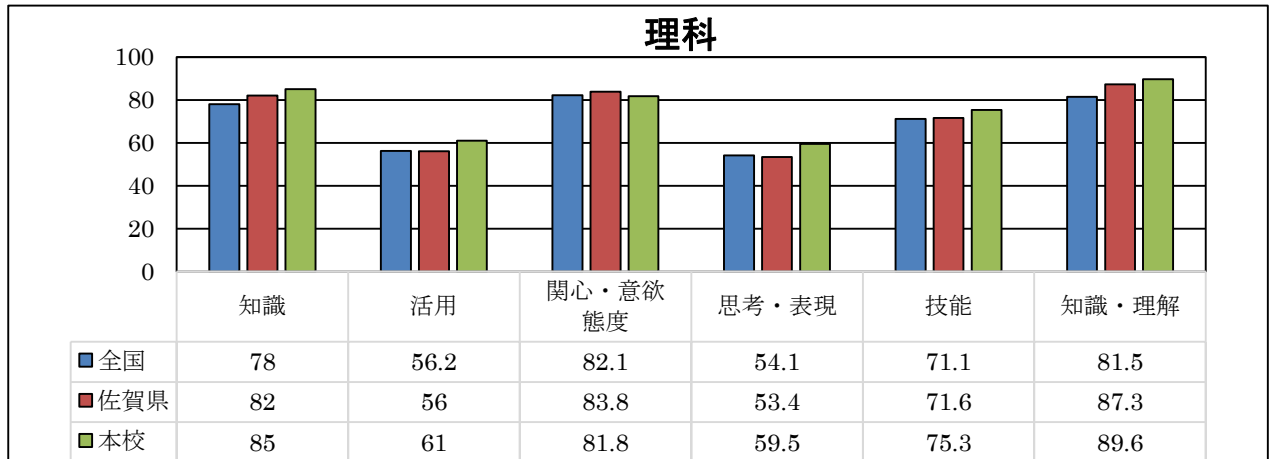
【ご家庭では】

- お子さんの学習について、理解の度合いなどの把握に努めてください。宿題プリントや計算ドリルをしている様子を見ていただき、励ますなどの声かけを行うことで、お子さんの意欲と自信を高めましょう。
- 算数の学習を生活の中で生かすような体験をさせましょう。買い物の時に、単位に目を向けたり、割引額などを一緒に計算したり、材料は身近にたくさんあります。ぜひお試しください。

3. 理科

(1) 結果

全国・佐賀県正答率との比較



基礎的な知識を問う問題も活用力を問う問題でも、ともに全国・佐賀県平均を上回っている。しかし、活用で、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題は全国・佐賀県平均を下回っている。

(2) 成果と課題

関心・意欲・態度

- ・安全に留意し、生物を愛護する態度を持って、観察できる方法の構想は、ほぼ全国・佐賀県平均と同等であった。今後も、主体的に学習に取り組み、関心を持って関わる態度を育てたい。

思考・表現

- ・複数の情報を関係付けながら、分析して考察したり、2つの異なる方法の実験結果を分析して考察したりする問題の正答率が高い。情報を整理しながら、必要な情報を選び、分析、考察する機会を、授業の中に取り入れている成果だといえる。今後も、複数の情報や異なる方法を分析、考察する時間を設け、話し合いによる対話的な活動、学びを継続して取り組んでいく。
- ・実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する問題では、正答率が17%で、全国・佐賀県平均を下回っている。論理的な説明に課題が見られる。

技能

- ・ろ過の適切な操作方法はしっかりと身に付けていた。今後も、実験に必要な器具の操作方法等は、確実に身に付けるようにする。

知識・理解

- ・流れる水のはたらきについて、堆積作用についての言葉や概念を問われた問題は、正答率が高い。理科の用語をしっかりと習得している結果といえる。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 実験結果などのデータをまとめた表やグラフから傾向を捉えて考察し、根拠や理由を示しながら自分の考えを記述できるようにします。
- グループでの話し合い活動を通して、自分の考えを吟味し修正しながら、より論理的な思考や表現ができるようにします。

【ご家庭では】

- お子さんが科学的な事象や自然現象について「なぜ?」「どうして?」という疑問を持つことは、学習への主体的な関わりの第一歩です。そのことについて尋ねたり、調べたりするときには、ぜひお子さんといっしょに考えたり、調べたりしてください。

4. 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果 《生活習慣について》

調査項目		本校 %	全国平均%
1	朝食を毎日食べていますか。	85.7	84.8
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。	75.4	77.0
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	87.0	88.8
4	家の人と学校での出来事について話しますか。	81.8	80.5
5	今住んでいる地域の行事に参加していますか。	57.2	62.7
6	平日読書を30分以上している。	37.7	41.1
7	テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。	87.0	86.2

生活習慣についての様子を見てみると、朝食は、ほとんどの児童が食べてきているが、起床、就寝については全国平均を下回っている。本校は「早寝・早起き・朝ごはん」を家庭へ呼びかけているが、「早寝・早起き」については、規則的な生活習慣を身に付けるためにも、家庭の協力が必要である。

地域の行事への参加率が50%台で、全国平均を下回っている。地域行事への参加状況は、個人差が大きい傾向があるため、学校からの啓発活動が必要である。

読書については、全国平均を若干下回っている。また、10分未満または全く読書をしない児童も30%ほどいるので、読書の奨励を更に呼びかける必要がある。

《家庭学習の様子》

調査項目		本校 %	全国平均%
1	家で、自分で計画を立てて勉強していますか。	70.2	67.6
2	家で、学校の宿題をしていますか。	96.1	97.1
3	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。	76.7	62.6
4	家で、予習・復習やテスト勉強において、教科書を使いながらしていますか。	76.7	69.9
5	家で、1日当たり1時間以上勉強していますか。(学習塾・家庭教師を含む)	79.2	66.2

自分で計画を立てて勉強している児童の割合が全国平均を上回っている。また、宿題をしている割合も全国平均とほぼ同等である。家庭の協力のおかげであるが、宿題のみの児童が多いこともうかがえる。また、特定の児童が忘れ物が多い傾向にあるので、忘れ物を減らすための学校での指導と家庭への協力の呼びかけも継続して取り組んでいく必要がある。

授業の予習・復習をしている割合や教科書を使う割合、さらに1日当たり1時間以上勉強している割合も全国平均を上回っている。しかし、1時間未満の児童も20%を超えており、今後も家庭と連携しながら、「北っ子ががんばろう週間」などを利用して、家庭学習の定着を図っていく。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】「子どもを伸ばす5つの柱」を中心に、全職員で、更なる学力向上につながる習慣づくり、環境づくりに努めていきます。また毎月第2週の「北っ子ががんばろう週間」の啓発も行っていきます。

* 「子どもを伸ばす5つの柱」

か…環境をととのえ す…すっきり生活 が…学習をがんばり

き…絆を深め た…タイム（時間）を大切に

【ご家庭では】家庭学習の時間や内容を示した「家庭学習の手引き」を今一度ご確認ください、家庭学習の充実を図っていただきたいと思います。早寝早起きの規則的な生活習慣のリズムの確立やテレビやゲームの時間を決めるなどの家庭でのルールづくりにもご協力ください。